

平成20年度  
事務事業の点検及び評価報告書

平成21年9月  
恩納村教育委員会

## 1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないことになりました。

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第27条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置し、その知見の活用も図りました。

この報告書は、今後毎年作成し、公表していくことになりますが、教育委員会としては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくこととしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、本村教育行政の着実な推進につなげて行きたいと考えております。

## 2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は5名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。

通常の業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

恩納村教育委員会では、毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成20年度の教育委員会の委員の氏名及び開催状況並びに各種行事等への委員の参加状況は次のとおりです。

### ○ 委員の構成

役職	氏 名	任 期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年数	
委員長	島袋正重	平成17年5月1日～平成21年4月30日	平成13年	2期8年	委員長8年
委員	仲本政夫	平成18年4月1日～平成22年3月31日	平成14年	2期7年	
委員	渡口美智子	平成17年7月1日～平成21年6月30日	平成17年	1期3年	
委員	宜志富栄	平成19年4月1日～平成23年3月31日	平成19年	1期1年	
教育長	西銘宣寿	平成17年4月1日～平成21年3月31日	平成13年	2期8年	教育長7年

### ○ 平成20年度教育委員会活動の状況

(1) 教育委員会の会議の開催状況

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
4月定例会	4月 21 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回議事録の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村立学校評議員委嘱の件 4. 恩納なびー舞台化検討委員会委員委嘱の件 5. 恩納村博物館運営協議会委員委嘱の件 6. 恩納村博物館非常勤館長の設置に関する規則の一部改正の件
5月臨時会	5月 8 日 午前 11 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回議事録の承認 2. 恩納村教育委員会委員長の選挙の件 3. 恩納村教育委員会委員長職務代理者の件
5月定例会	5月 19 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回議事録の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村博物館職員の復職辞令の件
6月定例会	6月 20 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回議事録の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村結核対策委員会委員の委嘱の件 4. 恩納村史跡整備委員会委員の委嘱の件 5. 平成 21 年度に使用する小学校教科書の採択の件
7月定例会	7月 22 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回議事録の承認 2. 教育長の業務報告 3. 平成 20 年度要保護及び準要保護児童生徒決定の件
8月定例会	8月 21 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	4 人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告
9月定例会	9月 19 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告

				3. 恩納村立幼稚園保育料減免者の決定の件
10月定例会	10月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 心身障害児適正就学指導委員会委員委嘱の件
11月定例会	11月20日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告
12月定例会	12月19日 午前10時	役場1階会議室	4人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告
平成21年1月定例会	1月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告
2月定例会	2月20日 午後3時	役場1階会議室	5人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の件 4. 恩納村立図書館計画推進委員会設置規程の件 5. 恩納村教育委員会社会教育課長の退職の同意の件
3月臨時会	3月2日 午後2時	役場1階会議室	5人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 平成21年度公立学校管理職定期人事異動及び新規採用職員内示（案）承認の件
3月定例会	3月19日 午後2時	役場1階会議室	5人	1. 前回議事録の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 平成21年度恩納村社会教育指導員の委嘱の件 4. 平成21年度恩納村公民館講座開設要項の一部改正の件 5. 平成21年度恩納村「カナダ・アメリカサマースクール」募集要項一部改正の件 6. 恩納村博物館長の任命の件

				7. 恩納村文化財保護審議会委員の委嘱の件 8. 国指定史跡「山田城跡」保存管理計画策定委員会委員の委嘱の件 9. 国指定史跡「山田城跡」保存管理計画策定委員会規程の承認の件 10. 恩納村各種協議等の県外派遣に関する補助金交付要項の一部改正の件 11. 恩納村体育指導員の委嘱の件 12. 平成 21 年度恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師委嘱の件 13. 恩納村奨学金貸与施行規則の一部を改正する規則の件 14. 恩納村社会教育委員委嘱の件 15. 平成 21 年度教育委員会職員に係る人事異動内示（案）の承認の件
3月臨時会	3月 27 日 午前 10 時	役場 1 階会議室	5 人	1. 前回議事録の承認 2. 教育長人事の件 3. 教育長候補者の選任の件

(2) 研修会、勉強会への参加状況

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
平成 20 年 5 月 8 日 ～9 日	名護市民会館	第 53 回市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会	5 名参加
7 月 18 日	那覇市民会館	平成 20 年度市町村教育委員会研修会	全委員
平成 21 年 1 月 29 日	県庁講堂	平成 20 年度教育委員・教育長研修会	全委員

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平成 20 年 4 月 1 日	役場 2 階会議室・1 階会議室	平成 21 年度職員辞令交付式	島袋委員長・教育長
4 月 2 日	総合保健福祉センター	平成 20 年度教職員辞令交付式	全委員
4 月 7 日	喜瀬武原小中学校体育館	小中学校入学式	西銘教育長

	恩納小中学校体育館	中学校入学式	島袋委員長
4月8日	仲泊小中学校体育館 安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 山田小中学校体育館	小中学校入学式 小中学校入学式 小学校入学式 小中学校入学式	渡口委員 宜志富委員 西銘教育長 仲本委員
4月9日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式 入園式 入園式 入園式 入園式	宜志富委員 西銘教育長 島袋委員長 渡口委員 仲本委員
5月24日	ゆうなホール	うんななびー「天の歌・愛の歌」舞台公演	
5月26日	喜瀬武原小中学校	学校訪問	8時から12時
5月28日	恩納小中学校	学校訪問	"
5月30日	安富祖小中学校	学校訪問	"
6月2日	山田小中学校	学校訪問	"
6月4日	仲泊小中学校	学校訪問	
7月4日	山田小中学校	子ども安全見守り隊結成式	仲本委員
8月28日	ゆうなホール 山田小中学校	教育講演会 運動会	全委員 仲本委員・西銘教育長
9月30日	喜瀬武原小中学校	学校訪問	8時から12時
10月1日	恩納小中学校	学校訪問	"
10月2日	山田小中学校 仲泊小中学校	学校訪問 学校訪問	8時から12時 14時から15時
10月4日	安富祖小中学校	運動会	宜志富委員・教育長
10月8日	恩納小中学校・福祉センター ゆうなホール	県学対訪問(午前中) 東邦音大コンサート	全委員 全委員
10月19日	仲泊小中学校	運動会	渡口委員・仲本委員・教育長
10月26日	喜瀬武原小中学校	運動会	宜志富委員・教育長
11月7日	中学生フォーラム	ゆうなホール	全委員
12月19日	1階会議室	村長との意見交換会	全委員
平成21年1月4日	コミュニティーセンター	平成20年度成人式	全委員

1月 21 日	ゆうなホール	村学対実践発表大会	全委員
2月 4 日	ゆうなホール	小中学校文化祭（9時45分） 文化講演会（19時30分）	全委員 〃
2月 20 日	喜瀬武原小中学校 安富祖小中学校	学習発表会（9時30分～10時45分） 学力向上対策実践発表会（11時～）	宜志富委員・西銘教育長 宜志富委員・西銘教育長
3月 3 日	1階会議室	学力向上対策委員会	全委員
3月 12 日	山田小中学校体育館 恩納小中学校体育館	中学校卒業式 中学校卒業式	仲本委員 島袋委員長
3月 13 日	仲泊中学校体育館	中学校卒業式	渡口委員
3月 15 日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館	中学校卒業式 小中学校卒業式	宜志富委員 西銘教育長
3月 18 日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	卒園式 卒園式 卒園式 卒園式 卒園式	宜志富委員 西銘教育長 島袋委員長 渡口委員 仲本委員
3月 19 日	安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	小学校卒業式 小学校卒業式 小学校卒業式 小学校卒業式	宜志富委員 島袋委員長・西銘教育長 渡口委員 仲本委員
3月 31 日	2階会議室	退職辞令交付式	島袋委員長

(4) その他の活動

日 時	場 所	活動の内容	備 考
平成 20 年 9 月 27 日	ゆうなホール	村政施行百周年記念式典・祝賀会	委員全員

(5) 課題等

委員会に対しては、住民に意向を教育行政に反映させるという本来の役割を担っていないなどの指摘もあり、今後は教育委員各自が教育委員の使命とその職務の重要性を認識するとともに、常日頃から各種事業に積極的に関るほか、不定期の勉強会や研修会、意見交換会を独自に開催し、委員の更なる資質の向上に取り組み、なお一層のリーダーシップを發揮していく必要がある。

#### 4 事務の点検評価について

教育委員会の事務の点検及び評価の項目は、「恩納村の教育」にしめされた事業一覧の中から、主な事業を抜き出して行いました。

点検評価に際しては、各事業ごとに「当初目標」、「実施内容」、「取組み結果」、「課題」を評価シートに担当課がまとめ、点検評価に際しては、教育委員を交えて検討を行いました。その後、評価の客観性を確保する観点から、外部評価委員会に提出し、意見を聴取しました。

評価の方法については、事務事業を客観的に判断するため、次の4段階評価としました。

- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成20年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
教育行政の充実	教育委員会研修事業	教育委員の資質の向上	県及び中頭地区教育委員会連合会主催の研修会への参加。	委員全員研修に参加できた	内部研修会や勉強会の開催	B	学校教育課
	事務職員研修事業	事務職員の資質向上	毎週水曜日の午前中に3時間程度安富祖校に集って給与、服務、文書の取り扱いなど共同実施を行った。また、臨時の任用職員配置校の支援のほか、実務研修や法令研修、パソコン慣習など各種研修を行なった。	事務を共同で行うことで事務処理の効率化が図られた。情報・知識・経験の共有により事務処理を円滑に行うことができた。また事務の効率化がされることによって教頭との連携が密になり、教育予算の執行や児童生徒に関する事務を連携して担えるようになった。	教育委員会との共同実施を行なうことができればでの活動内容の共通理解を深め、より一層充実した教育支援を行えるよう、連携体制を確立したい。	B	学校教育課

#### 4 事務の点検評価について

教育委員会の事務の点検及び評価の項目は、「恩納村の教育」にしめされた事業一覧の中から、主な事業を抜き出して行いました。

点検評価に際しては、各事業ごとに「当初目標」、「実施内容」、「取組み結果」、「課題」を評価シートに担当課がまとめ、点検評価に際しては、教育委員を交えて検討を行いました。その後、評価の客観性を確保する観点から、外部評価委員会に提出し、意見を聴取しました。

評価の方法については、事務事業を客観的に判断するため、次の4段階評価としました。

- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成20年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
教育行政の充実	教育委員会研修事業	教育委員の資質の向上	県及び中頭地区教育委員会連合会主催の研修会への参加。	委員全員研修に参加できた	内部研修会や勉強会の開催	B	学校教育課
	事務職員研修事業	事務職員の資質向上	毎週水曜日の午前中に3時間程度安富祖校に集って給与、服務、文書の取り扱いなど共同実施を行った。また、臨時の任用職員配置校の支援のほか、実務研修や法令研修、パソコン慣習など各種研修を行なった。	事務を共同で行うことで事務処理の効率化が図られた。情報・知識・経験の共有により事務処理を円滑に行うことができた。また事務の効率化がされることによって教頭との連携が密になり、教育予算の執行や児童生徒に関する事務を連携して担えるようになった。	教育委員会との共同実施を行なうことができればでの活動内容の共通理解を深め、より一層充実した教育支援を行えるよう、連携体制を確立したい。	B	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
教育振興事業	学校評議員設置事業	村民の意見を学校経営に取り入れることにより、地域に開かれた学校づくりに寄与する。	各学校5名以内の評議員を学校の推薦に基づき配置した。	校長と評議員が意見交換することにより、地域との交流など地域目線の学校経営に反映された。	各学校評議員会の開催日数や評議員の出席状況に差がある。	B	学校教育課
	校長会・校務研修事業	校長と教育委員会が教育に関する情報交換を密にすることにより、課題を的確に捉え、学校経営及び教育行政に反映させる。	毎月1回、各校校長及び教育長、学校教育課長、指導主事が参加して開催とともに、視察研修で各校長を本土に派遣し、学校経営について研修させた。	学校現場と教育行政の関係者が各種情報を共有することによって、相互の連携が図られ、一体となった教育が行われた。	より効果的な活動を推進するため、教頭会を置き、必要な情報交換を行なう必要がある。また、視察研修も校長、教頭交互に派遣する必要がある。	B	学校教育課
	教育相談事業	各種の事情で不登校になっている子ども並びに保護者の相談に応じ、必要な支援を行い改善を図る	教育委員が射ないに設置された相談室に相談員を週三日配置し、来室相談、電話相談、学校訪問相談を実施した。	相談員が相談員とよりよい関係を築いたことで来室者が増え、不登校生徒への対応等で効果をあげることができた。	心の教室相談員との情報交換など学校との連携を更に綿密に行なうなどの工夫が必要	B	学校教育課
	学力向上対策事業	学力向上対策委員会を組織し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら知・徳・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。	各部会ごとに事業計画を基に各種事業を展開した。	学校教育部会、検査庁舎評価部会は計画通りの事業展開ができたが家庭地域部会は子ども会中心の事業が主となり過程・地域が一体となった活動に課題が見られた。	より効果的な活動の推進を図るため、会則を見直すとともに家庭地域部会をより活動しやすい組織に見直す必要がある。	B	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
教育振興事業	知能検査 標準学力検査事業	児童生徒の学力の定着状況の把握	4月の知能検査・標準学力検査実施 1月の学習到達度検査実施	児童生徒の実態を把握し、指導方法や指導内容の改善を行った	学習到達度検査を12月に実施し、治療して学年のたすきを渡す	B	学校教育課
	教育講演会事業	村民の教育に関する意識の高揚を図る	学力向上対策の一環として講師を招き、保護者、教師を対象に知徳対の講話を実施	自分らしく生きることをテーマに阿部敏郎氏を講師に招いて講演会を実施し、参加者からは好評であったが、参加者は見込みより少なかった。	参加者を増やすことが課題である。今後は村民全体への周知徹底策及び講演会の時間を検討する必要がある。	B	学校教育課
	教育委員会 学校計画訪問	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況の確認	年2回の学校訪問実施し、学校の説明、要望を聴取するとともに指導助言を行った	計画通り実施でき、改善点を含め適正な協議が行えた。	学校の改善状況の把握(校務研等の連携)	B	学校教育課
	恩納村テスト事業	村内児童生徒の国語や算数(数学)の学習状況を把握する	委員会で問題を作成し、村内の小4年及び中2年を対象に実施した	予定通り実施し、対象児童生徒の状況を把握できた	問題の作成方針・内容について現場の教師との確認が必要	B	学校教育課
	石狩市中学生交流事業	交流体験を通した知識・能力の向上 人間性豊かな	・施設等見学 ・交流学習 ・体験学習 ・民泊体験	村内中学生1・2年生24名が参加し、石狩市と歴史、文化、人的な交流を行った	寒さを軽視し、薄着で体調を壊し、他に迷惑をかける場面があったので指導を徹底する。	B	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
教育振興事業	石狩市中学生交流事業	交流体験を通した知識・能力の向上 人間性豊かな人材の育成を図る	・施設等見学 ・交流学習 ・体験学習 ・民泊体験	村内中学生1・2年生24名が参加し、石狩市と歴史、文化、人的な交流を行った	寒さを軽視し、薄着をしたことで体調を壊し、他に迷惑をかける場面があったので事前指導を徹底する必要がある。	B	学校教育課
	村制100周年記念中学生フォーラム事業	生徒会の主体的な運営で、生徒会に係る課題等を協議することにより生徒会活動の活性化と発表力、表現力、協調性を育成する。	100周年記念事業ということで村内全中学生参加の下に各学校の生徒会活動の取組みを発表するとともに、その課題について討議、情報交換を行なった。	村内全中学生参加によるフォーラムは初めてということもあり、進行に不慣れなところも見られたが、フロアも含めて活発な議論が繰り広げられフォーラムの意義の理解と発表力に育成に効果があつた。	統一課題を一つ設定し、各学校のアプローチの仕方を紹介する方法を検討する。また、進行に際し議論を高めるため、フロアの意見をもっと積極的に取り上げるなど運営方法について指導が必要。	B	学校教育課
	村制100周年記念小中学校文化祭事業	文化活動の高揚に資するとともに児童生徒相互の理解・交流を深める	村制100周年記念の単年度事業として全児童生徒参加の下に実施。小学校は童話・お話の発表並ぶに書く学校の発表。中学校は代表の意見発表、作文発表のほか桂才賀氏による講演会を行った。	小中学校とも村内の児童生徒が一堂に会する機会は少ないので各学校の発表に聞き入っていた。会場内も整然として聞く態度に好感が持てた。桂才賀氏の講演会は叱られる側の中学生向けと叱られる側の一般向けの2回に分けて実施したがそれぞれに好評だった。	今回は単年度事業で実施した。年に一度このような事業を開催することも各学校の間の連携を図る上から有意義だと思われるが、予算の確保と学校の日程の確保が厳しい。今後検討していく必要がある。	B	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
教育振興事業	奨学資金貸与事業 生徒指導対策事業	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	本村に住所を有する者及び村民の子弟を対象に、県外大学等(年額42万円)月額県内大学等(年額30万円)を貸与する。	県内17名県外16名合計33名に対し1182万円を貸与した。	長期的に返還が滞っている人がおり、今後の貸与資金の確保の観点からも回収の促進が急務となっている。	B	学校教育課
	職場体験学習事業	村内5校の中2年生を対象に正しい職業観を身につけさせることをねらいとする	希望する村内外の事業所に5日間派遣して職務の内容を体験させた。	34の事業所に157名の生徒が参加し、職場の現実を認識させることができた。	派遣先で、マナー、態度の面で指導を受ける生徒がいて、事前の指導や講習会を強化する必要がある。	B	学校教育課
	インターネット学習環境支援事業	児童生徒のインターネットを使った調べ学習等を支援し、インターネット活用能力の向上を図る。	校内LANを整備しいつでも、どの普通教室でもインターネットに接続できる環境を提供した。	日常的にインターネットを活用できる環境を整備することで、調べ学習や進学志望校のホームページを検索するなど、活用能力の向上が図られた。	インターネット活用能力がどの程度ついているか検証する取組みが必要。	B	学校教育課
幼稚園教育の充実	教職員研修の充実	幼稚園教諭の資質向上	教育課程研修、県幼稚園会研修、村内研修会などへ參加した。	実践的指導力などの資質の向上が図られた。	幼児と直接関わる教師の資質の向上は最重要課題である。目的を明確にした県外視察研修への派遣及び教諭の派遣時間の確保を検討していく必要がある。	B	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
幼稚園教育に充実	絵本等の整備の充実	絵本に親しむ児童の育成	・園児用図書の増冊 ・絵本貸し出しの実施 ・親子読み聞かせの推進	新刊図書を充実させたことにより、親子の読書意欲の向上が図られた。	継続的な図書購入のための予算の確保	B	学校教育課
	管理備品・保育振興備品の充実	保育環境の充実	運動遊具、保育振興備品の購入及びその安全点検、修繕の実施	園内外の保育環境の整備が図られた。	遊具の安全点検の実施及びその活用方法の研究	B	学校教育課
	自然環境・人材を活用した保育活動の充	具体的・直接的な体験活動の実施	文化施設、職場見学や多様な人材を活用した保育を推進した。	夢や希望を育むとともにコミュニケーション能力の育成が図られた。	多様な経験を有する人材を活用するため、各種団体との連携	B	学校教育課
学校教育の充実	教育振興備品の充実	教材備品の活用により生きる力を育む効果的な学習を実施する。	小学校 971 千円 中学校 601 千円の教材備品を購入した。	教材備品の活用により生きる力を育む効果的な学習が図られた。	教師によって必要・不要となる備品があり、計画的かつ効果的な購入について学校の意識啓発を行う必要がある。	B	学校教育課
	扶助事業の充実	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に恵まれない児童生徒の教育を支援する。	提出された申請書を審査要領に基づき審査し、条件を満たしている家庭に補助金を交付	補助金を交付したことにより、経済力に左右されることのない、平等な学校教育の推進に寄与できた。	援助を必要としている児童の保護者が申請しているかどうか、また補助金が学資に活用されているのかについての検証が必要。	B	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
学校教育の充実	宿泊学習事業	村内児童の交流及びコミュニケーション能力の向上	村内各学校の小学5年生を対象に、石川自然の家で2泊3日の合同宿泊学習会を開催し、交流会や各種の体験活動を実施した。	団体生活を営むことで、協調性やコミュニケーションの重要性を認識させることができた。	2泊3日は、児童にとってきつい日程と見られ疲れが見られた。効率的な日程について検討が必要である。	B	学校教育課
	心の教室相談員事業	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活が営まれる学校環境をつくる。	各学校に相談員を配置した。	相談員が児童生徒と良好な関係を保ち、相談やアドバイスをおくることにより、児童生徒がゆとりをもって安心した学校生活をおくることができた。	相談員は、児童生徒との信頼関係を保持し、適切なアドバイスをおくるなど高い資質が望まれるが、人材の確保が難しい。	B	学校教育課
	情報教育推進事業	各学校の児童生徒のコンピュータ操作能力及び活用能力の向上を図る。	各小中学校にパソコンを設置し、各学校に専門指導員を派遣した。	指導員の活用により児童生徒の活用能力が向上した。	今後は指導員に頼らないで教師が直接指導できるよう教師のコンピュータ指導能力の向上が必要。	B	学校教育課
	特別支援員配置事業	障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	恩納小学校へ6名、その他の学校へ1名計10名の支援員を配置	支援員を派遣したことによりその障害の程度に応じた支援が展開できた。	予算及び支援員の確保。支援員と学校の連携	B	学校教育課
	英語指導助手派遣事業(ALT)	児童生徒の英語力の向上	各学校に外国人英語助手を派遣し、英語による授業を行なった。	生の英語に触れることにより、英語に親しむ環境ができ、英語力の向上がはかられた。	継続的な予算の確保と効果的な運用を図るために1年間を通しての活用計画の策定。	B	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
学校教育の充実	対外競技派遣事業	生徒の文化、スポーツの振興	会大会を勝ち抜いて県外派遣が決定した個人又は団体に派遣費（航空費・宿泊費）を補助する。	競技力の向上が図られ、安富祖校ソフトボールや喜瀬武原校のバドミントン部が九州大会に出場した。	文化活動の活性化	B	学校教育課
	中学校部活動支援事業	中学校の文化、スポーツの振興	大会参加料及び部活動消耗品を予算の範囲内において負担する。	学校における教育活動として実施しているため、保護者の負担を軽減できた。	運動部は活性化しているが、文化活動の活性化と全生徒の部活動参加が課題である。	B	学校教育課
	恩納小中学校校舎改築事業	安心・安全な教育環境の確保	老朽化している小中学校校舎の建て替え	校舎を改築したことにより、校舎並びに設備の充実が図られ、よりよい学習環境を確保することができた。	本村の校舎は老朽化しており、今後安富祖校や山田校の改築や改修が必要なるが、かなりの財政的な負担が見込まれる。	A	学校教育課
	学校施設持管理事業	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保	学校施設・設備の修繕や取替えなどによる適正な機能保持や危険木の伐採、グラウンドの補修などを実施した。	各学校の施設や設備の修繕などを迅速に行なうことにより、適切な維持管理が図られ、よりよい教育環境が確保できた。	遊具については専門的な見地からの検査が必要。また、学校の設備は多種多様化しており、その全てに対応するには予算の確保が厳しい。	B	学校教育課
	恩納校外溝工事	恩納校校庭の整備による快適な教育環境の確保	校庭の雨水排水施設の整備及び緑化	排水施設の整備や中庭を植樹や芝張りで緑化したことで、清潔で安らぎのある環境をつくることができた。	かなりの面積が緑化されており、その維持管理には学校の真摯な対応が必要となる。	A	学校教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
	村制 100 周年記念事業 恩納ナビー物語の上演	うんなナビーを舞台化することによって、琉歌の里恩納村を広くピーチアルするとともに村民の村の文化に対する誇りを持たせ、人材育成に寄与する。	村内外より出演者を募集して約7ヶ月間稽古に励み、100周年記念事業として村民に公開した。	児童生徒を含む老若男女総勢50名の出演により、昼・夜の二回公演を行なった。観客数1,300名が鑑賞し村民として誇りと感動を与えることができた。	学校や地域でも活用ができるよう台本の手直しを検討する必要がある。	B	社会教育課
	学校週5日制対応事業	地域及び青少年団体が開催する事業を村が支援する。	人形劇や子供ども会体験ツアー、後援会など村内の児童生徒を対象にして土曜日日曜日に開催される事業に補助金を交付して支援した。	村が支援したことで多様な事業が展開され子どもの健全育成に寄与することができた。	この事業も一定の効果を出すことができたが、学校週5日制が定着している中で、今後新たな事業展開を検討する必要がある。	B	社会教育課
	国際交流派遣事業	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。	琉球新報社と提携し、約1カ月間カナダ又はアメリカでホームステイを体験させる。	中高校生6名を派遣した。帰国後の作文では、どの参加者も英語力だけでなく家族や事業に關った関係者への感謝の気持ちを表すなど、心の成長も垣間見られた。	貴重な体験の場であり、応募者を増やし、派遣人数を増やす工夫がヒツヨウ。	B	社会教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
社会教育の充実	成人式事業	村内の各団体の代表者が一堂に会し、新成人を励まし、祝う。	式典、記念撮影、懇親会。	毎年早い時期から問い合わせがあるなど参加者の意識は大会。20年度は104名の参加し厳かに開催することができた。	毎年同様な内容で開催されておりマンネリ感は否めない。新成人の希望を取り入れた内容を検討する必要がある。	B	社会教育課
	シルバー教室	高齢者が仲間とのふれあいを通して、生きがいを見い出すことのできる機会の創設	ラッピング・はがき絵・お菓子作り・折り紙などの教室のほか健康講演会の開催	10回の開催で203名の参加者があった。飽きずに気楽に参加できるようなプログラムが毎回大好評だった。	参加者のニーズと主催者側が取り組んでほしい講座とのずれがあり、その調和を図る工夫が必要	B	社会教育課
	らくらく子育て教室	子どもたちの「生きる力を育む基礎的な資質や能力を育成する場である家庭の教育機能の回復及び充実を支援する。	夏休み子ども料理教室を各校区で開催。そのほか親子リズム体操、石鹼作り、ベビーマッサージ教室、腹話術講座や親子読み聞かせを実施した。	10回の開催で478名の参加があった。子どもたちには恩納村の特産物を覚えてもらう良い機会になった。	今年度から夏休みの子ども料理教室は大好評だった。参加者は校区によって差があり参加者を増やす工夫が必要	B	社会教育課
	生き生き女性教室	現代社会を理解し、社会的視野を広げる場を提供し、女性の地域づくりへの参加を推進する。	ヴェーネレ美容法・ラッピング・パン作り・石けん作り講座の開催	10回で71名の参加者があった。現在好評である講座を選んだ結果、興味を持って参加する方が多かった。	女性が参加したいと思う講座を企画し参加者を増やす工夫が必要。	B	社会教育課
	婦人リーダー育成事業	地域リーダーとしての資質や指導力を高める	中頭地区青年・婦人国内研修への派遣	生涯学習の大切さを実感し、婦人会活動へ活かしている	婦人会の身近な活動に活かせるような研修への参加。	B	社会教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
社会教育の充実	婦人・青年リーダー育成事業	婦人会役員、青年会役員を対象にして研修を行い、地域リーダーとしての資質や指導力を高める	中頭地区青年・婦人国内研修への派遣	生涯学習の大切さを実感させることができ、婦人会活動へ生かすことができた。九州地区生涯学習実践研究を通して、青年会活動に対する意欲を育てることができた。	婦人会、青年会の身近な活動に生かせるような研修の工夫が必要。	B	
	青少年劇場小公演事業	優れた生の芸術を直接に鑑賞してもらい、本物の芸術にふれさせる。	村内の学校施設を使い著名な二胡奏者の姜建華氏、中国琵琶奏者の楊宝元氏のコンサートを実施した。	安富祖校と仲泊校で全児童生徒並びに保護者を集めてコンサートを行なうことで芸術に触れ合う機会をつくれた。	今後は、学校等のニーズに対応して実施していく必要がある。	B	
	村青少年健全育成事業	村の補助事業として村内各団体で青少年健全育成協議会を組織し、次代を担う青少年の健全育成を図る。	夜間街頭指導・少年の主張・意見発表大会・少年野球大会・中学陸上競技大会・小学生駅伝大会を実施した。	各事業とも多くの参加者があり盛況に開催できた。夜間街頭指導は村少年補導員、各学校PTAの協力により毎月実施できた。	中学陸上は各字対抗陸上競技大会と同時開催しているが、学校行事や運動会と重なることから、調整を密にして日程を決める必要がある。	B	社会教育課
	各自治会公民館講座・学級等の充実	地域住民に対して学習機会を提供するとともに指導者養成を図る。	公民館の希望に添って操体法、パンフラー、カービング、ビーズアート、真美体操等の講座・学級を実施した。	各公民館によって参加者数にはらつきがあるが、それぞれに学級長の工夫が見られた。安富祖公民館講座の操体法講座はサークル活動に発展した。	婦人会が主になっているので、男性も参加できるような講座の開設が必要	B	社会教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
社会体育の充実	各種社会体育事業の充実	地域住民を対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	壮年ソフトボール大会・壮年バレー・ボール大会・ミニバレー大会・女性スポーツ大会～キンボール編～・新体力テスト	各大会とも多数の村民が参加し、参加者相互の健康増進及び親睦が図られ成功裏に事業を終えることができた。	新体力テストは、福祉健康課とタイアップして、村民の健康に対する意識の向上を図る必要がある。	B	社会教育課
	村体育指導員の活動支援	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、体育指導委員個々の資質の向上を促す。	村体育指導委員宿泊研修会・軽スポーツ教室・村各種社会体育事業への協力	活動を支援することにより、体育指導委員が主管で開催された各事業にて参加者相互の健康増進及び親睦が図られた。	社会体育指導員個々の更なる資質向上のためにも、企画、運営等を含めて意識の改革が必要である。	B	社会教育課
	村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付しその活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	・村内各字対抗の競技大会の開催 ・郡大会の開催及び選手の派遣	活動を支援することによって、スムーズな協会の運営が図られている。	行政の過度の関りはその主体性を損なう恐れがあり、自立運営を促す必要性を痛感しているが、現実問題として、自立は厳しい。また競技力の向上は緊急の課題である。	B	社会教育課
	村立小学校体育施設(プール)の一般開放事業	夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民泳力及び体力の向上を図る。	村立学校のプールを日曜日を除き週5日間村民に開放した。	開放期間中一般を含めて1000名余の利用があり、体力、泳力の向上が図られた。	各種余暇施設がえたことにより本事業の利用者が減少傾向にある。利用への啓発や水泳指導者の配置及び水泳教室の開催など、改善策を講じる必要がある。	B	社会教育課

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
社会体育の充実	各種団体等県外派遣補助事業	村民のスポーツに対する意欲を向上させ各種スポーツの振興を図る。	県大会で優秀な成績をおさめ県外派遣が決定した個人に人材育成支援金2万円を支給した。	高校生14名、一般4名に激励金武が支給され、本人を含め村民のスポーツ振興の更なる向上につながっている。	スポーツの振興に有効であるが、継続した予算確保が課題である。	B	社会教育課
	平成22年度全国高校総合体育大会恩納村実行委員会補助事業の充実	平成22年度全国高校総体のワドボーラ協議技大会が本村で開催されるにあたり、実行委員会に補助金を交付し、その円滑な運営を図る。	恩納村実行委員会の活動費、運営費を補助した。	実行委員会設立総会が開催され、役員体制及び活動計画が承認され活動を開始した。	大会の円滑な運営を図るために地域及び共催地との連携が必要である。	B	社会教育課
	村体育施設維持管理事業	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行なわせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	赤間運動公園、塩屋運動公園等の施設を指定管理者を指定し、維持管理を行なわせた。	管理費用の軽減が図られるとともに良好な管理が行なわれ、各種のスポーツ行事が開催され利活用が増加した。	指定管理者による自主事業の開催、更なる利用率向上のための支援や助言が必要である。また従業員の村民優先雇用、村民利用のための利便性の向上策を検討していく必要がある。	B	社会教育課
文化行政の充実	海の見える博物館やちむん・ガラス工芸展08	村内の伝統工芸の紹介と理解を深める	村内で活躍する工芸作家の作品を展示了。	やちむんは10名から33点、ガラス工芸は7名から13点の出展があり村内外から472人の来館者がいた。	出展者や作品を増やすとともに地域参加型の展示会を目指す。	B	博物館

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
文化行政 の充実	村制百周年記念事業企画展「あの頃のうんな～写真が語る激動の百年～」	村制 100 周年にちなみ、村の歴史や人々の生活の様子の移り変わりを写真や生活資料などから振り返る。	村内各字公民館を中心に資料収集を行い、字別に展示することで来館者の目を引くよう工夫し展示を行なった。	一ヶ月の展示期間中に村内外から 1,257 人の来館者があった。村内の方々に好評であった。	収集した資料の整理及び今後の公開（定期展示など）活用のための取組み。	B	博物館
	サンセットコンサート～古典舞踊音楽鑑賞会～	沖縄の伝統芸能への関心を高め、恩納村の文化振興に資する。	沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻OB会が依頼し、古典舞踊、組踊演舞を行った。	質の高い芸能を村民役 100 名が鑑賞し好評を得ることができた。	村民参加型にするため、村内で継承されている組踊や、村民が出演できる演目の実施検討	B	博物館
	ジュニアボランティア養成講座	子ども達が地域の歴史や文化を学び伝えて行けるよう指導してほしいと要望があり、夏休み期間を利用したガイド養成が行われた。	夏休み期間を利用して、村内中学生の希望者 3 名に館長と学芸員で、博物館常設展示室（民俗分野）ガイドの講座を実施した。	中学生が実際に来館者への案内を務めることで、自信と達成感を得て、村内の歴史にも興味を持ちはじめた。	村内各学校との連携が必要。また地域の指導者及び先生方の参加する事業にしたい。	B	博物館
	村指定文化財保護事業	村指定文化財の保護と活用	博物館において公開活用すると共に文化財パトロール等により保護に努めた。	村指定文化財の公開及び保護ができた	継続して文化財の保護及び活用に努める共に指定文化財の増加に努める	B	博物館

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
文化行政 の充実	歴史ロード を歩こう	文化財を見て、聞いて、触ることで文化財愛護思想の啓発を図る。	国指定史跡「国頭方西海道」を歩きながら説明して地域の文化財を学習させた。	村内外から 80 名もの参加者が集まった。国頭方西海道の歴史的価値を認識させることができた。	年々参加者増加しており、ガイドの育成等対応方法を早急に検討する必要がある。	B	博物館
	親子文化財 めぐり	親子で文化財めぐりをすることにより、その認識を高めて文化財保護の保護思想を啓発する。	護佐丸と関りのある山田城跡・座喜味城跡・中城城跡・勝連城跡の文化財巡りを実施した。	恩納校の親子が参加し文化財に対する意識や護佐丸に関する知識を深めた。	ワークシート形式などの学習方法を検討する必要がある。	B	博物館
	国庫補助事 業、恩納村内 遺跡発掘調 査等	国庫補助 4 カ年事業として、村内の埋蔵文化財の分布状況の把握と開発調整に必要な確認調査の実施	初年度の平成 20 年度は、名嘉真及び安富祖地区の埋蔵文化財の分布調査及び開発調整のための確認調査を行なった。	未発見の埋蔵文化財（遺跡）を 3 遺跡確認した。開発調整の確認調査を 2 箇所で実施した。	増加する開発に伴う村内の埋蔵文化財の保護	B	博物館
	国庫補助事 業、国頭方西 海道保存修 理事業	国庫補助で国頭方西海道の利活用のため、滑りやすい斜面地に転落防止柵及び手摺を設置し利用者の安全を図る。	景観に配慮しながら 2 箇所に転落防止柵及び手摺を設置した。	利用者の安全確保が図られた。	今後とも利用者の安全を確保しながら管理及び利活用を進めていく必要がある。	B	博物館
	国庫補助事 業、国頭方西 海道史跡等 買上げ事業	国頭方西海道に所在する土地の公有地化	国庫補助事業でフエーレー岩の所在する土地を買収する。	計画通り買収し、公有地化することができた。	今後とも国指定文化財の所在する民有地を公有地化していく必要があるが予算の確保が厳しい。	A	博物館

主要施策	事業項目	事業の目標	取り組み内容	取組み結果	今後の課題	評価	担当課
文化行政の充実	塩屋貝塚緊急発掘調査	村営住宅建設に伴い、塩屋貝塚の発掘を行い記録保存する。	現地発掘調査を行なった。	期間内で発掘調査及び記録調査をすることことができた。	発掘調査の資料の整理及び報告書の作成がまだ完了していない。	B	博物館
	山田城跡国指定業務	山田城跡を国指定史跡にする。	地権者との調整及び文化庁・県文化課へ申請手続きを実施した。	平成21年4月1日付で国指定史跡となった。	今後は保存・整備・活用に取り組む必要がある。	A	博物館
	国頭方西海道(フェーレー岩)追加国指定業務	国指定史跡「国頭方西海道」にフェーレー岩所在の地域の追加指定を目指す	地権者との調整及び文化庁並びに県文化課へ申請手続きを実施した。	平成21年2月12日国指定史跡に追加された。	今後は保存・整備・活用に取り組む必要がある。	A	博物館
	栄養教室の開催	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	給食センター栄養士が各学校に赴き指導した。	児童生徒に食の大切さを認識させることができた。	給食センターの栄養士は栄養教諭ではなく全ての学校に対応するのは厳しい。関係課と連携する必要がある。	B	
	村産食材の積極的な活用	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	食材は国産のみを使用し、村産品・県産品で調達できるものは積極的に活用した。	安全な給食の提供ができるとともに、地産地消にある程度貢献できた。	村内で生産される食材を積極的に活用したいが、個人搬入では限界がある。仲立ちをするコーディネーターが必要。	B	
	給食センター見学の推進	給食の調理の状況を見学させて、その安全性を認識させる。	児童生徒に対し、給食の調理現場の状況を見学させ、調理過程を説明した。	給食調理の際の衛生面に対する配慮など、調理現場の安全性を認識させることができた。	見学時間の確保など、学校現場との連携を密にする必要がある。	B	

## 5 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成メンバー及び意見の内容は次のとおりです。

### (1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

役 職	氏 名	任 期	備 考
委 員 長	大 城 勝 泰	平成 21 年 8 月 1 日～平成 23 年 7 月 31 日	元教育委員・前村議会議長
副 委 員 長	真 栄 城 慶 子	平成 21 年 8 月 1 日～平成 23 年 7 月 31 日	元村子供育成会会长・現恩納校学校評議員
委 員	金 城 啓	平成 21 年 8 月 1 日～平成 23 年 7 月 31 日	前石川高校校長・現安富祖校学校評議員

### (2) 外部評価委員会の意見

外部評価委員会では、教育長の諮問に基づいて、平成 21 年 8 月 17 日、8 月 19 日、8 月 20 日に会議を開催し、点検評価に記載された各種の事務事業の評価や課題の把握の根拠などについて、担当課長及び担当者の説明を受けながら評価を行ないました。また、8 月 27 日にはこれまでの会議の経緯の確認とそれを踏まえての意見の集約を行ないました。その結果は次のとおりです。

#### 1 点検評価報告書について

今回の点検評価は初めての取組みであったが、点検項目並びに業務内容、取組み結果及び課題についてはわかり易く丁寧にまとめられ、担当課が熱心に取り組んだことが伺えました。

評価は、A・B・C・D の 4 段階で評価されているが、A 評価と B 評価の違いがわかりづらくその違いを明確にする必要があると思います。また評価に際しては、各事業の計画段階で数値目標を明らかにし、数値目標の達成状況に応じた評価を行なうことができればよりわかり易い内容になるのではないかでしょうか。今後ご検討をお願いします。

#### 2 教育委員会の活動内容について

教育委員会の会議や教育委員の主催事業等への参加状況が詳しく紹介されており、教育委員の活動がわかる内容になっています。しかしながら、村民の中から選任された教育委員の方々は村民の意向を教育行政に反映させるという大きな義務を負っているものと思いますが、今回の報告書を見る限り教育委員のそのような活動内容が見えてきません。自らも課題に述べられていることに真摯に取り組まれて課題解決されることを期待します。

#### 3 事務事業の評価について

今回は 11 施策、66 事業についての内部評価を点検しましたが、ほとんどが B 評価となっており、取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価が低いような気がしました。

特に、村制 100 周年記念事業として実施された「中学生フォーラム」は、発表力や表現力の育成など本村の中学生が抱える課題解決に大きな実績を残すことができ、これを契機に以後継続して全中学生参加で取り組むこととしていることからその成果が注目

されます。A評価が妥当と考えます。

また、村制100周年記念事業として実施された村民劇「うんなナビ一物語」の公演は、昼夜2回の公演で1,300人余の村民が鑑賞し、新聞報道によると鑑賞したほとんどの村民が感動と恩納村民としての誇りを持てたと絶賛していることから当然A評価すべきと考えます。

同様に博物館で開催された企画展「写真で見るあの頃のうんな」も、恩納村がたどった100年間の軌跡を記念事業として紹介したもので、1,300人余が鑑賞しています。収集された資料は保存され今後定期的に公開することも可能だということであり、その効果や今後の展開を考えた場合は当然A評価でよいと思います。

自己評価は、担当者にとってその過程や目標が高いほど課題が見えてくることから低くなりがちです。受益者の視点で評価することも必要ではないでしょうか。また、担当者の取組みの経緯などを踏まえて評価すれば結果的に担当者の意欲の増進につながるものと思います。今後の検討をお願いします。

なお、外部評価をしていく中で委員から多様な意見や提言がありましたのでその主なものを列記いたします。今後の参考にしていただければ幸いです。

- ① 社会教育課所管の事業は多岐にわたっているが、対象者が競合しているものも多々あり、そのことが参加者の負担につながっていることが懸念される。今後事業内容を点検し整理統合を進めていく必要がある。
- ② 学校教育課所管の「対外競技支援事業」は、中体連で県外派遣が決まったものに対しては、学校教育活動の一環として航空費及び宿泊料を支給すべきである。
- ③ 「村テスト」は指導主事が作問して実施しているが、教育の客観性、継続性を維持していく観点から、村内の各校長から推薦された先生方で構成される作問委員会を組織して実施から検証を行い、その結果を各学校で活用できるようにすればよりよい事業効果が期待できる。
- ④ 学校事務の共同実施は教育委員会で組織化して実施すべきである。

村民が教育委員会の所管する事務事業を検証し評価することはこれまでになかったことで、村民への説明責任を果たす上からは画期的な取組みであり高く評価します。行政の閉塞感が何かと指摘される昨今ですが、この点検評価を契機に職員の皆さんのがPDCAサイクルに則って事務事業に取り組んでいくことができれば、マンネリ化を打破し、村民の意向が反映された教育行政して効果的な事務事業の推進につながるものと期待いたします。また次年度の点検評価では、今回明らかになった課題に対してどのような取組みが行なわれその結果がどうだったのか。また予算の面からの費用対効果はどうだったかということも併せて明示していただければより質の高いわかり易い点検評価になるものと思います。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部委員会の意見と致します。

## 6 結びに

今回の点検評価は教育委員会にとって初めての取組みで素行錯誤の中で進めてきました。そのため何かと不備があるかもしれませんのが、今後は村民の方々によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう書式を改めて報告して行きたいと思います。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業のより効果的な実施と内容の充実に努めてまいります。

年々複雑多様化する教育の更なる発展に向けて常に現場の声に耳を傾け、問題意識を持ちながら事務事業を進めて行きたいと思います。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願ひいたします。

平成21年9月

恩納村教育委員会